

社会学部報

◇学部研究会

- 1989年12月6日 発表者 津金沢聡広本学部教授
「連合王国におけるコミュニケーション政策の動向」
- 1990年3月8日(特別例会) 発表者 J. G. Blumler 教授(国際コミュニケーション学会会長・リーズ大学)
「情報化の進展と放送政策の形成」

◇会員の新著

- 船本弘毅教授(著書)「聖書の世界」 1989年9月 創元社
- 高田真治教授(著書)「コミュニティ・ワーク——地域福祉の理論と方法——」 1989年10月 海声社
- 真鍋一史教授(共著)「Communication & Culture」 1989年11月 Longman Inc (New York)
- 田中國夫教授(共著)「都市の魅力」 1989年

11月 都市文化社

- 田中國夫教授(共著)「性格心理学講座 第6巻 ケース研究——個性の形態と展開」 1989年11月 金子書房
- 浅野仁教授(分担執筆)「社会福祉実践の思想」 1989年12月 ミネルヴァ書房
- 津金沢聡広教授(分担執筆)「現代中国の消費革命」 1989年12月 日経広告研究所
- 宮原浩二郎教授(分担執筆)「青年文化の聖・俗・遊」 1990年1月 恒星社厚生閣

◇海外出張

- 田中國夫教授 1989年12月13日から12月17日まで、「国際諮問委員会に代表として出席」のため、タイ国へ。
- 宮田満雄教授 1990年2月14日から2月25日まで、「アメリカの同窓会支部及び提携大学の視察訪問」のため、アメリカ・カナダへ。

◇社会学部人権問題研修会

- 1989年11月8日(水) 発題者 衆議院議員・河上民雄氏
題目「最近の東欧」

学会消息

◇日本社会学会

日本社会学会第62回大会は、10月21日、22日の両日、早稲田大学で開催された。本学からは「部会 社会理論のフロンティア〈モダン〉を問い直す—」で正村俊之助教授が「近代社会と資本主義」と題する発表を行った。一般研究報告では、「産業・企業の部会」で牧正英教授が司会を務め、一日目の午後に行われた「階層・階級の部会」では真鍋一史教授が「中国における階層帰属意識と職業移動の分析」と題して、また、「基礎理論の部会」では本学大学院研究員・門中正一郎氏が「ミクローマクロ問題とゴフマン—相互作用秩序の視点から—」と題して、それぞれに研究発表を行った。今年の参加者数は、会員887名（うち大学院生138名）、非会員160名（うち学生125名）、合わせて1,047名にのぼる盛会であった。

◇日本社会福祉学会

日本社会福祉学会第37回大会は1989年11月11日・12日の両日、日本社会事業大学（東京・清瀬）で開催された。1日目は自由研究報告とシンポジウム、「社会福祉制度改革と福祉実践—実践・処遇の視点からみた制度改革—」がもたれ、2日目は再び自由研究報告が続けられた。

本学からは次の2名が報告した。

立木茂雄専任講師（共同研究）「児童相談所におけるシステム・アプローチ—一時保護所を活かしたエコロジカル・アプローチの実践例—」

同（共同研究）「基本対人援助技術のコンピュータ支援学習システムの構築に関する研究」

渡辺顕一郎大学院学生（共同研究）「家族危機とその対応資源の評価方法」

なお次回大会は関西学院大学で開催されることが決定した。

◇日本社会心理学会

日本社会心理学会第30回大会が1989年9月23日と24日の両日、東京女子大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が第1日（9月23日）の「文化・国際比較」の部会の座長をつとめるとともに、「日中相互イメージの構造—AttitudeとInvolvementの関係の分析を中心として—」と題する研究発表を行った。

◇日本国際政治学会

日本国際政治学会の1989年度秋季大会が10月21日（土）と22日（日）の両日、広島大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が第2日（10月22日）の「国際交流」の分科会において、「国際イメージと国際情報—日中関係をめぐって—」という内容で話題提供を行った。なおディスカッサントは東京外国語大学の宇佐美滋教授で活発な討議が展開された。

◇日本広告学会

日本広告学会第20回全国大会が1989年10月27日（金）と28日（土）の両日、松山大学において開催された。本学からは真鍋一史教授がプロジェクト研究のセッションで、朝日広告社の西本浩三氏、関西大学の中農晶三教授とともに、「地方イベントと広告—ひょうご北摂丹波の祭典ホロンピア'88とダッハらんど'89大阪—」と題する研究発表を行った。

◇日本新聞学会

日本新聞学会1989年度秋季大会が11月11日（土）、一橋大学において開催された。本学からは津金沢聡広教授、真鍋一史教授が出席したが、真鍋一史教授は個人研究発表部門で「日本人の中国イメージの『天安門事件』後の変化の軌跡—マス・コミュニケーションの議題設定効果（Agenda-Setting Effect）仮設の再検討—」というテーマで報告を行った。

◇日本出版学会

日本出版学会主催の第4回国際出版研究フォーラムは、1989年10月23日から3日間、青山学院大学で開催された。10カ国1国際機関が

参加し、「東アジア文化圏における出版開発と交流」というテーマで報告が行われ、活発な討論がなされた。最終日には国際出版学会を設立したいとする日本出版学会の提案が討議され、「出版研究者の国際的なネットワーク」設立を求める勧告が全会一致で採択された。本学部からは芝田正夫助教授が出席した。

◇アジア・カルヴァン学会

本学部森川 甫教授は1989年10月6日から9

日まで韓国、ソウル、アカデミー・ハウスで開催された第2回アジア・カルヴァン学会に参加し、“Richard Stauffer and his work”との題目で研究発表した。

◇ポール・ロワイヤル学会

1989年10月13日、14日、“Jansénisme et Révolution”の主題で、フランス、ヴェルサイユで開催されたポール・ロワイヤル学会に参加した。

執筆 者 紹 介 (掲載順)

沙	蓮	香	中 国 人 民 大 学 社 会 学 研 究 所 教 授	真 鍋 一 史 Harumi Befu	関 西 学 院 大 学 教 授 ス タ ン フ ォ ー ド 大 学 教 授
森	川	甫	関 西 学 院 大 学 教 授	西 山 美 瑳 子	関 西 学 院 大 学 教 授
倉	田	和 四 生	関 西 学 院 大 学 教 授	中 野 秀 一 郎	関 西 学 院 大 学 教 授
高	田	真 治	関 西 学 院 大 学 教 授		

社 会 学 部 研 究 会 会 員

会 長	遠 藤 惣 一				
評 議 員	高 田 真 治	牧 正 英	中 野 秀 一 郎		
	村 川 満	対 馬 路 人	正 村 俊 之		
会 計 監 査	佐々木 薫	宮 田 満 雄			
書 記	岡 部 衛 一 郎				
名 誉 会 員	青 山 秀 夫	藤 原 恵	本 出 祐 之		
	小 関 藤 一 郎	西 尾 朗	岡 村 重 夫		
	嶋 田 津 矢 子	定 平 元 四 良	杉 原 方		
	清 木 盛 光	栃 原 知 雄			
	(A B C 順)				
普 通 会 員	田 中 國 夫	萬 成 博	領 家 穰		
	倉 田 和 四 生	杉 山 貞 夫	半 田 一 吉		
	武 田 建	森 川 甫	張 光 夫		
	中 山 慶 一 郎	J.A. ジ ョ イ ス	船 本 弘 毅		
	津 金 沢 聡 広	春 名 純 人	紺 田 千 登 史		
	西 山 美 瑳 子	安 田 三 郎	真 鍋 一 史		
	山 路 勝 彦	山 本 剛 郎	鳥 越 皓 之		
	荒 川 義 子	安 藤 文 四 郎	浅 野 仁		
	高 坂 健 次	芝 田 正 夫	芝 野 松 次 郎		
	中 西 良 夫	宮 原 浩 二 郎	立 木 茂 雄		

関西学院大学社会学部研究会会則

第1章 総 則

第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1-155 関西学院大学社会学部内におく。

第2章 事 業

第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

第4章 運営組織

第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。
6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

第 7 条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第 5 章 総 会

第 8 条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたとき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第 9 条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

第 6 章 会 計

第 10 条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第 11 条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費
普通会員年額 19,200円
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第 12 条

本会員および本学社会学部大学院学生・学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間1,600円とする。

付 則

第 1 条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第 2 条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第 3 条

本会則は1989年4月1日より施行する。

「社会学部紀要」編集内規

1989年4月1日施行

1. 「社会学部紀要」(以下、本紀要という)は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。

- ①原著
- ②研究ノート
- ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
- ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
- ⑤その他編集委員会が必要と認めた記事

4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会員とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会員の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会員と共同研究をおこなった者とする。

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会員による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。

5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。

- ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
- ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
- ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。

図凸版(トレース、写植代)は10,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。

- ④原稿には和文および英文の表題をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。

6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。

10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷30部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された本紀要は名誉会員、普通会員及び学生に配布する。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

<編集後記>

大雪のため試験開始時間が30分延期されるというハプニングがあった今年の入学試験第1日目、その社会学部の入試も無事終わって、今日は合格者の発表が午後から行われました。

そんなあれこれのルーチンが続く忙しい中、今回は領家 稔・萬成 博両教授の退職記念号（「社会学部紀要」第61号と第62号）を同時に発刊することになりましたが、原稿をお寄せくださった先生方に厚く御礼申し上げます。

慣例に従いまして、両先生の記念号にそれぞれ論文、研究ノート、報告や消息などを振り分けておりますが、適切な配慮を欠いているとお叱りがないことを願っています。

この「社会学部紀要」第62号は萬成 博教授の退職記念号といたします。最近の萬成教授の中国へのご関心を反映する形で沙蓮香先生の論文を掲載することができましたことは大変幸いでした。

萬成先生の永年にわたる関西学院と社会学部へのご献身に感謝いたしますと共に、ご健康に留意され、新たな舞台で元気一杯にご活躍されますことをお祈り申し上げます。

社会学部の事務主任篠崎陽一さんには、いつものことですが、編集事務を一手に引き受けていただきました。どうも有難うございました。（中野）

1990年3月10日 印刷

1990年3月20日 発行

編集発行人 遠 藤 惣 一

発行所 関西学院大学社会学部研究会
〒662 西宮市上ヶ原一番町
関西学院大学社会学部内
電話(0798)⁽⁵³⁾6111(代表)
(内線) 4212

印刷所 尼崎印刷株式会社
〒660 尼崎市北大物町16-55
電話 (06)481-0707(代)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 62

March 1990

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
